第2回熊野川下流部減災対策協議会　議事概要

日時：平成 28 年 7 月 21 日（木）15:00～16:00
場所：新宮市役所　地下一階会議室

【出席者】
田岡新宮市長、西田紀宝町長
水野紀南河川国道事務所長
（以下、代理出席）
和歌山県　千東河川・下水道局長（森戸県土整備部長代理）
三重県　倉田施設災害対策課長（水谷県土整備部長代理）
気象庁　和歌山地方気象台　白川次長（井上気象台長代理）
気象庁　津地方気象台　松木防災管理官（日当気象台長代理）

【報道機関】
NHK（和歌山放送局）、毎日新聞社、熊野新聞社、紀南新聞社

【主な発言】

・新宮市　・今後想定される最大の雨量等に基づいて、各自治体でハザードマップを検討すると認識している。地震の場合は、100 年に 1 回の計画規模と 1,000 年に 1 回の想定最大規模の 2 種類があるが、今回の浸水想定は地震のようにレベルが分かれているのか。

・事務局　・水防法より、想定最大規模の浸水想定区域図を作成するというのが定められている。浸水想定区域図も 2 種類ある。想定最大規模は、マニュアルに 1,000 年に 1 回という規模を目安にするように示されている。

・紀宝町　・東日本大震災の外力は、想定外と言われている。今回は想定最大規模となっているが、どういった降雨を考えてこれを決定しているのか。架空なのか実績なのかが分かりづらい。

・事務局　・今回の想定最大規模は平成23年紀伊半島大水害を上回る規模で考えている。平成23年紀伊半島大水害は超過確率約400～500年の洪水であったが、今回の想定最大規模としては超過確率1000年規模を設定している。

・新宮市　・想定最大規模の雨量に基づいて、熊野川下流部の取組方針と合わせて自治体で今後の取組内容を検討する。雨量がどういったものになるか決定してから、今後の協議を行いたい。
・平成23年紀伊半島大水害の時には、堤防の越水が多かったために浸水範囲が拡がった。実績最大規模であるこの洪水を超える想定最大外力での浸水想定では、市内のほとんどが浸水してしまうと考える。こういった過大な予測で、市民がより不安に陥ってしまうのではないか。
・上流には利水ダムがいくつかあるが、降雨時に一気に放流して一気に水位が上がるというイメージがある。ダムの影響に関してはどうなっているのか。また、影響に関して、浸水想定区域図が公表された後に協議したいと考えている。

・事務局　・本協議会の目的は、平成27年9月関東・東北豪雨の鬼怒川での被害のように、計画規模を上回る洪水による浸水に対して、減災対策を考えるものである。今回は破堤した場合も考えているため、浸水想定も過去のものに比べると大きいものとなるが、いたずらに市民の不安を煽るようなことにはならないようにしたい。
・ダムの影響については今後示していきたい。J-POWER も含めて協議会をする必要があると考えている。

・新宮市　・熊野川行政区は浸水するのか。浸水が拡がると完全に孤立する地区であり、避難の方法を考える必要がある。

・事務局　・直轄区間内のみ検討を行っているため不明である。

・紀宝町　・災害廃棄物の処理は非常に労力が必要であり、災害時には自前の処理施設だけで対応するというのは困難であった。紀宝町のように小さい町では、一般廃棄物は広域事務組合を作って処分している。平成23年紀伊半島大水害の際には、県の廃棄物担当の方に廃棄物処理の陣頭指揮をとって頂いた。一般廃棄物は市町で処理をすることになっているため、他所の市町で処理をするとなると契約をして、受け入れ態勢をとってもらう必要がある。県の方がそれぞれの市町と調整し体制を整えていただければ、スムーズな対応が可能であると考える。
・想定最大外力の際に、警報等を頂けないと市町では対応が難しい。どういった形で情報を共有するのかを検討するために気象庁と連携したいと考えている。また、避難経路、水防資機材の量や位置は最大クラスの津波で設定しているため、今回の想定最大外力による浸水想定で水防資機材等の備蓄について、一から見直しを行う必要があり、非常に苦慮する。

・事務局　・情報伝達の形態については、タイムラインの検討等も踏まえて考えていきたい。
・想定最大外力の浸水想定はまた各機関と共有し、幹事会、協議会を行って検討していきたいと考えている。